

IV 研究の成果と課題

本研究テーマを掲げて研究をスタートして2年目となり、今年度は子どもたちを取り巻く「他」の中の「もの」に着目し研究を進めてきた。

「もの」とのかかわりの中で自分らしさを発揮できる子どもたちを育てるためには、保育者としてどのような援助が大切か、またどのような環境構成を工夫していけばよいかを追究してきた。

研究の成果と課題について、「保育者としての援助の在り方」、「環境構成の工夫・改善」の面からまとめてみたい。

〈 成果 〉

- 実態調査を2回実施することによって、幼稚園での生活が家庭での生活へと影響し、「もの」とのかかわりも充実してくることが明らかになり、環境構成をする際も家庭とのつながりを意識して行うように努めることができた。(園生活でしか味わえない「もの」とのかかわりはもちろん、家庭でも扱える身近な素材とのかかわりを計画するなど)
- 「もの」とのかかわりを追究するうちに、現在見られる遊びの中で、子どもたちが体験していることを明らかにすることができ、今後どのような姿へとつながっていくのかを意識する大切さを改めて実感できた。
- 「もの」を分析していくことで、その「もの」の新たなよさに気づき、保育に生かすことができた。
- 子どもが「もの」とかかわる姿を3段階で表し、事例を分析していく中で、各段階で大切にしたいことを次のようにまとめることができた。

① 新しい「もの」と出会い、初めてかかわる姿

<保育者の援助の在り方>

- 子どもたちと共に遊びを楽しむ。
- 一人一人の発見に共感する。
- 一人一人の気づきが周りへも広がるような言葉掛けをする。
- これまでの経験を大切にする。

<環境構成の工夫・改善>

- 時期、子どもの実態に合った「もの」を精選する。
- 子どもたちが興味や関心、「やってみたい」と意欲をもっている「もの」との出会いを計画する。
- 充実感や満足感、達成感を感じられるような「もの」を提案する。

② 「もの」を遊びに取り入れながら、その特性に気付いていく姿

＜保育者の援助の在り方＞

- 一人一人の気持ちに共感する。
- 見守る、仲間に入るなどのタイミングを見極め、必要に応じて援助する。
- 子どもたちと共に遊びを楽しむ。

＜環境構成の工夫・改善＞

- 子どもたちがイメージするものに近付いていけるような「もの」を設置する。
- 繰り返したり、何度も挑戦したりできるような「もの」を設置する。
- 心地よい負荷を感じられるような「もの」を提案する。

③ これまでの経験をもとに、「もの」の特性を生かして工夫して遊ぶ姿

＜保育者の援助の在り方＞

- 見守ったり、仲間になったりして遊びを楽しむ。
- 一人一人の気持ちに共感する。
- イメージや遊びが広がるような援助をする。(言葉掛けを工夫するなど)

＜環境構成の工夫・改善＞

- 子どもたちが様々な遊びを展開できるように、これまでかかわってきた「もの」を設置する。
- 子どもたちと一緒に考えながら、必要な「もの」を設置する。

- 各年齢の姿を整理する中で、年少児、年中児、年長児の姿が変容していく過程が見えてきて、それぞれの年齢の特徴をまとめることができた。(P63, 65, 67)
- 子どもたちが自分らしさを発揮するための「保育者としての援助の在り方」,「環境構成の工夫・改善」についてのポイントを年齢ごとにまとめることができた。(P64, 66, 68)

＜ 課題 ＞

- 「もの」の教材研究を大切に、子どもたちと出合わせ、かかわらせたい「もの」を今後も探っていきたい。
- 来年度は「自然」を中心に研究を進めながら、今後も「人」「もの」とのかかわりを継続的に分析し、様々な場面における具体的な保育者の援助の在り方や環境構成の工夫について追究していきたい。
- 参考資料 P76 で見られた「地域活動への参加が少ない」という実態に、今後どのように働きかけていくかについて模索していきたい。
- 子どもたちが自分らしさを発揮する姿が、小学校生活へもつながっていけるように、子どもの発達や学びの連続性を意識した教育課程・指導計画づくりに努めたい。

